

平成28年度テーマ別研修
「教育相談スキルアップ研修 - いじめ・不登校への対応 -」

不応を起こしている 子どもに対する理解と指導・支援



名城大学大学院
大学・学校づくり研究科 曾山和彦

2016.6.13

1日共に学び合う 参加者の「関係づくり」

お薦めの「関係づくり」演習
ネームゲーム

学校不応予防・指導・支援のキーワードは「関係づくり」！ まずは、私たち自身で体験を！



2

学校不応の定義と現状

<定義> 学校における集団活動や学業などの諸活動に対する適応の困難さを示し、本人ならびに周囲の人が苦しんでいる状態(曾山)

- 歯止めがかからない学校不応(不登校、いじめ等)問題
- 小6から中1にかけて、不登校数は3倍、いじめ認知件数は1.5倍になる「中1プロブレム」
- 通常学級に在籍する発達障害児の2次障害としての学校不応問題

3

現代の子ども像と支援の基本方策

- 自分にOKと言えなければ、他者には尚更OKとは言えない。自分を大切にできなければ他者は尚更大切にできない
自尊感情(自己評価の感情)を育もう！
- 他者とかかわる技術・コツがなければ他者を大切にできない
ソーシャルスキルを育もう！

キーワードは自尊感情とソーシャルスキル
どちらもかかわりの中でしか育たない
人が人になるには人が必要

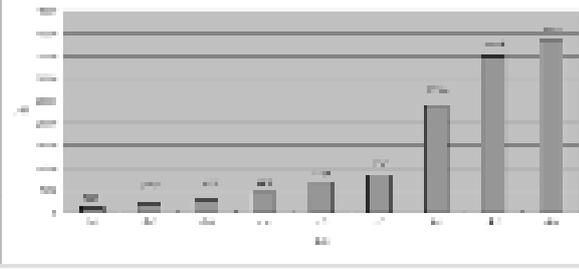
学校存在の意義がここにある！

「どうせ」「うざい、死ね！」
家庭、地域の教育力が以前に比べ、ぐっと落ちています

昔以上に気になる子が気になります

4

H26学年別不登校児童生徒数



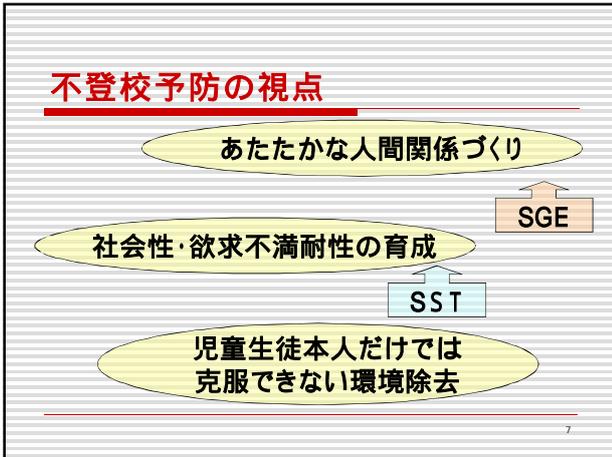
中1プロブレム；不登校が約3倍に跳ね上がる！

私が出会った言葉 ～不登校の子どもを支えるヒントが見える～

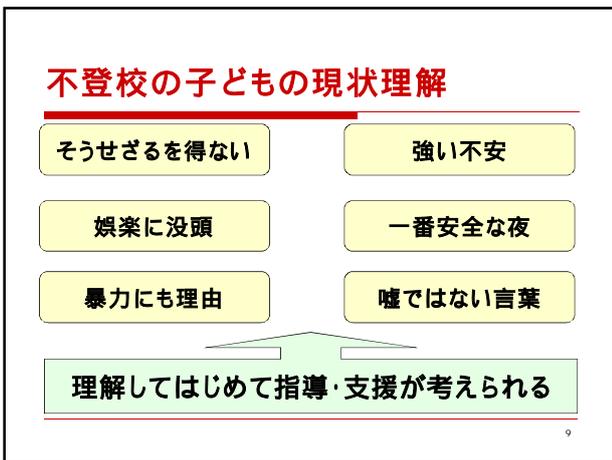
- 「理由があったが言いたくなかった」(金馬氏)
- 「自分がなぜ学校に行けないのか、わからなかった」(学生)
- 「親は焦らないでほしかった」(学生)
- 「適応指導教室があることを教えてくれれば、引きこもらなかった」(学生)
- 「周りには小さなことでも本人に大きな問題。教師と親が、本人が納得するまで向き合っていれば、欠席が長期化することはなかったかも」(追跡調査生徒)

皆さんが大切にしている言葉は？

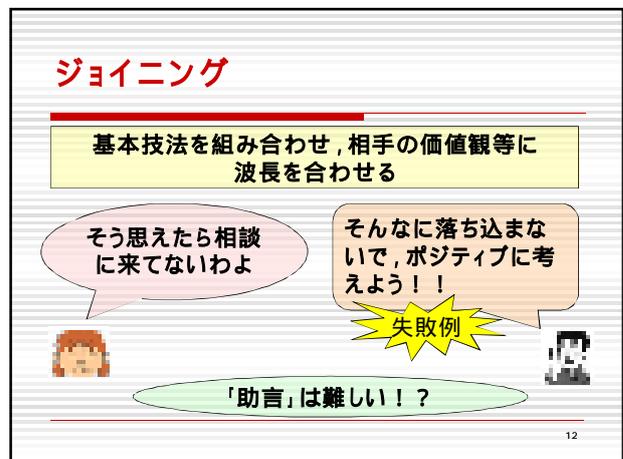
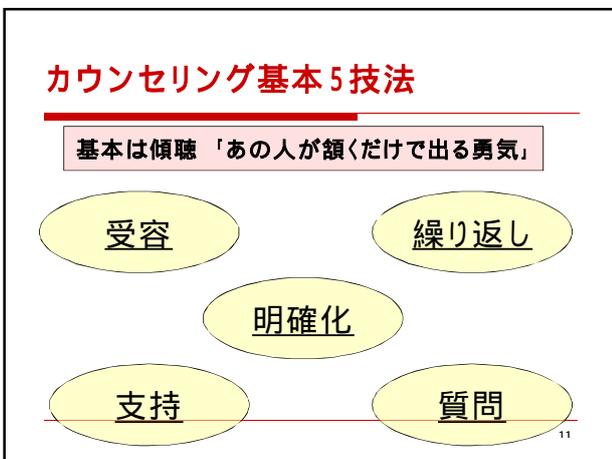
6



- ### 不登校の基本的な考え方
- 成長・発達の課題
 - 成長・発達の後、「結果として」登校
 - 一人一人に異なる指導・支援
 - 特効薬はなく、日常の積み重ねがポイント
 - 学校・担任とのパイプが再登校の必要条件
 - 解決策を与えず、共に考える姿勢で



- ### 不登校支援はガソリン補充
- ガソリン: 自尊感情 & ソーシャルスキル
- カウンセリング基本5技法
 - ジョイニング
 - リソース探し
 - 例外探し
 - スケーリング・クエスチョン
 - 勇気づけ 等
- 様々なガソリン補充法



リソース探し

人は誰でもリソース(資源)を持っている
いつでもどこでもリソース、リソース

いいところ探し & リフレーミング活用

リソースを探して、
「褒める・勇気づける・認める」
ちょっとしたお手伝いなどに「ありがとう」

無理に褒めず

13

例外探し

うまくやれていること(例外)はきっとある！
100%「問題」ということはない！

教室に行って勉強できない → 水曜日に数回教室に行けた

例外の責任追及
どうやったら、できたのですか？

14

スケーリング・クエスチョン

教室に行けていた時期を10点とすると
今は何点くらい？

4点くらいかな

0点ではなくて4点という、その4点分は
いったい何？

15

ガソリンチェック

～子どもを「車」に例えるならば(花輪)～

「車」を動かせるかどうかのチェック

外出は？	生活リズムは？
手伝いは？	退屈してる？
学校への関心は？	エネルギーは？

16

「車」を動かす

いよいよ、「車」を動かす段階

学力・体力補充

受け入れ確認

段階登校・教室復帰訓練

条件が整えば「車」は動く！

17

不登校生徒の追跡調査より

(文部科学省 2014.7.9発表)

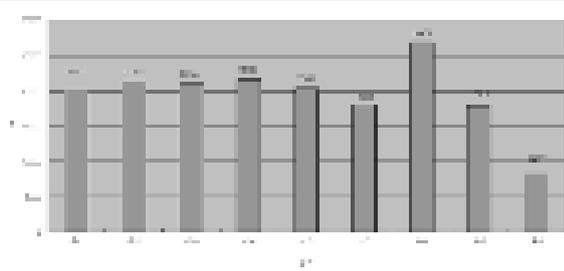
- 長期欠席となる前に兆候となる欠席があり、「潜在期間」を経て不登校に陥る傾向。
この段階で家庭訪問等による気持ちの丁寧な聴き取り
- いったん不登校が長期化すると、学校復帰が困難になる傾向。
復帰は13.7%にとどまる

休みは最初の段階で、学校・家庭・機関連携を大切に！

適応指導教室等

18

学年別いじめ認知件数 (H26)



中1プロブレム;いじめが約1.5倍に増加!

いじめの構造理論

□ 4層構造 (森田, 1986)

- ・加害者
 - ・被害者
 - ・観衆～いじめを積極的に是認
 - ・傍観者～いじめを暗黙支持、促進
- * 日本のいじめは中学生になると仲裁者が減り、傍観者が増える。

20

いじめの背景理論

- 欲求不満 = 攻撃説
- 社会的学習理論
- 役割理論
- シプリング・ライバルリ
- プライバタイゼーション = 私事化

友だちの話は「どうでもいい」、自分の話は「聴いて」という子ども

21

いじめの態様

- 全校種において一番多いのは、「冷やかしからい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」であり、全体の64.5%を占める。

この時点での対応が重要(割れ窓理論)
放置すると、「もの隠し」「暴力」へとつながる

- 「パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる」は高校が18.2%と多くなる。

22

「割れ窓」はすぐに修理

～割れ窓(ブローケンウィンドウズ)理論～

もしある建物の一つの窓が割られ、修理されないままに放置されれば残りの窓は全部すぐに割られてしまうだろう

(ケリング&ウィルソン論文, 1982)

- 地下鉄の落書き消し NYの犯罪激減
- ロッカーの整理 「小さな乱れ」で止める
- 悪口の指導 いじめへの拡大阻止

23

自閉症スペクトラム障害

(Autism Spectrum Disorder)

2領域(社会的コミュニケーションの制限、反復性の行動・興味)における軽度(L1)～重度(L3)の能力低下という連続体を示す障害
(DSM- 日本語版 2014年5月発刊)

PDD(広汎性発達障害)

* 社会性、コミュニケーション、想像力の弱さ

- ・自閉性障害(*この中で知的な遅れを伴わない者が「高機能自閉症」)
- ・レット障害
- ・小児期崩壊性障害
- ・アスペルガー障害
- ・特定不能PDD(*非定型自閉症と同義)

DSM- では
PDDの診断名



24

必ず歩きたい
「王道」

ASDへの支援のワザ

- 視覚情報の活用 フォトグラフィックメモリー
- 一度にひとつ 短期記憶の弱さ
- 予定の伝達 見通しのもちにくさ
- 肯定的表現 苦手な禁止、注意
- 文化に寄り添う

感覚の過敏性
(例) 触覚、聴覚、視覚、嗅覚、味覚等
字義性
(例) 真っ直ぐ家に帰るのよ あそこの角を曲がらないと帰れないよう~

拙著「気になる子への支援のワザ」(教育開発研究所)に事例がたっぷり

障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法 2013.6月成立)

- 差別的取扱いの禁止(法定義務)
- 合理的配慮不提供の禁止(国・地方公共団体等は法定義務)

基礎的環境整備のもとに

2016.4月施行

特に、学校生活の様々な場面における「合理的配慮」に関する校内整備が必要。保護者の声に応えるために...

26

学校不適應の 予防・改善に向けた関係づくり

- 教師と子ども、子ども同士に「かかわりの糸」が紡がれたなら「学校不適應」という問題は消えていく

関係づくりの第一歩は
相手への関心

「何が好きなんだろう?」「何が得意なんだろう?」「いいところは何だろう?」、等々
＜エピソード;ハンゲル少年との関係づくり＞

子どものリソース(資源)がヒントとなる

子ども同士の関係づくりは
午後の研修でお伝えします!

子どもとの 関係づくり第一歩

関係づくりをロールプレイで体験

なぜ、ロールプレイなのか? (ロールプレイの意義)

ロールプレイは「道場の竹刀稽古」。本番で斬らない、斬られないために稽古を積む(河合)

28

ロールプレイ;軽めの「竹刀稽古」

<テーマ> 趣味(好きなこと)

- ・聴き手;「 さんの趣味について話をしてもらえますか」
- ・話し手;3分間話す

* 聴き役は、「関係づくりの第一歩」を踏んでみましょう!

29

傾聴 ~そのチェックポイント~

- 言葉の応答に限らず、身体全体、心も併せて聴けたか(言語及び非言語的コミュニケーションはどうだったか)
- 相手の話を取ってしまわなかったか
- ジョイニング(波長合わせ)ができたか

30

午前のおわりに

～皆さんに伝えられる・伝えたいこと～

- つながりが人を癒やす・育てる
- 今、見ている景色も楽しむ
- 軌跡が奇跡を生む

午後もよろしくお願ひします



31

主な参考文献

- 「指導援助に役立つスクールカウンセリング・ワークブック」、黒沢幸子、金子書房
- 「時々、“オニの心”が出る子どもにアプローチ学校がするソーシャルスキル・トレーニング」、曾山和彦、明治図書
- 「気になる子への支援のワザ」、曾山和彦、教育開発研究所
- 「「気になるたち」理解教育の基本」、曾山和彦、教育開発研究所
- 「子どもに学んだ “王道” ステップン・ツー・スリー」、曾山和彦、文溪堂

特別支援に関する私の考えの全ては「王道ステップ」にまとめました！



HP:「KAZU・和・POCKET」

32

参考

基礎的環境整備と合理的配慮の項目

- 基礎的環境整備8項目 国、都道府県、市町村

「専門性のある指導体制の確保」、「専門性のある教員、支援員等の人的配置」、「施設・設備の整備」、「交流及び共同学習の推進」等

- 合理的配慮3観点11項目 学校の設置者、学校

1. 教育内容・教育方法:「学習上または生活上の困難を改善・克服するための配慮」、「心理面・健康面の配慮」等

2. 支援体制:「専門性のある指導体制の整備」、「災害時等の支援体制の整備」等

3. 施設・設備:「校内環境のバリアフリー化」等

33

参考



実践事例データベース活用を！



34